

踏切の鳴動状態を考慮した歩行速度特性

鈴木大輔 遠藤広晴 秋保直弘 榎並祥太 水上直樹

踏切における歩行者の歩行速度特性を知ることは、踏切の安全性向上に極めて重要です。本研究では、踏切通行者の歩行速度の実態を把握するために3箇所の踏切において4,726人の歩行速度を調査しました。踏切が鳴動する前に進入した場合と鳴動した後に進入した場合について、歩行速度の平均値、標準偏差、分布についてのデータを取りまとめるとともに、横断歩道を対象とした先行研究の知見と比較しました。その結果、踏切の鳴動時に歩行速度を上げる歩行者と上げない（あるいは、上げられない）歩行者がいるものと考えられました

(図参照)。また、先行研究において横断歩道が長いほど歩行速度は速くなると報告されていましたが、踏切においても同様の傾向が見られました。踏切での歩行速度の範囲は、横断歩道と同程度でした。

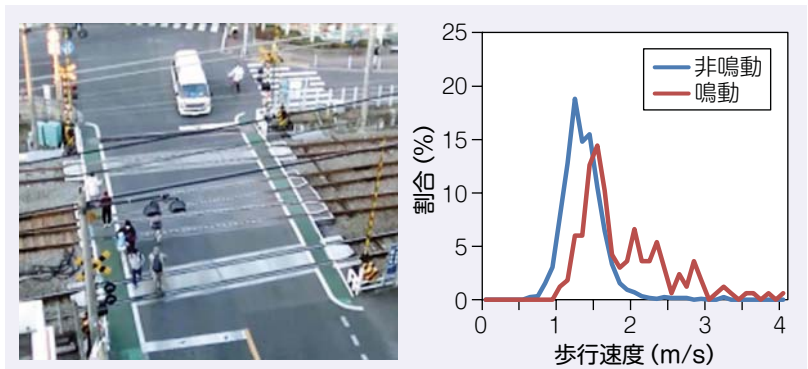


図 調査した踏切の外観の一例とその歩行速度分布